

研究名：脳卒中患者のドライビングシミュレーターによる評価と運転再開可否判定の妥当性の検証

研究責任者：リハビリテーション科 職名 作業療法主任 氏名 川島英之

研究の背景・意義・目的：自動車運転は障害者の社会参加にとって有用な手段ですが、重大な社会的責任を伴うことから、その安全性を見極める必要があります。脳卒中は、脳の損傷部位によって生じる障害はさまざま、また、その重症度も一定ではありません。運転再開を検討するにあたり、神経心理学的検査はスクリーニングとして有用であると報告があります。一方で、外乱の多い環境で必要とされる高次脳機能の評価を机上のみでは検出することはできないとの指摘もあります。近年、リハビリテーション医療の現場で、運転再開に向けた評価・訓練用のためのドライビングシミュレーターが応用開発され普及してきています。実車前評価として開発され、机上検査ではとらえきれない情報処理速度が要求されることから、路上運転を安全に実施できるか否かを判定する上で、重要な情報を提供するとされています。一方で、運転再開可否の判断にあたって、どの検査項目に着目し、どの程度の基準で再開可能性が安全に可能である、と判断すればよいのかは明確になっていません。本研究の目的は、机上で行った神経心理学的検査とドライビングシミュレーター評価の相関性、また、退院後の運転再開状況について調査を行い、可否判定の予測に向けたドライビングシミュレーターの基準値を明らかにさせることです。

研究の方法：

- ・当院回復期病棟へ入棟した脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）の診断名で入院された方で、運転再開の希望があり、神経心理学的検査およびドライビングシミュレーター評価を実施した方
- ・研究期間 院長の研究実施に関する決定通知発行後から 2027 年 3 月 31 日まで
- ・利用する検体
カルテ情報、診断名、年齢、性別、検査結果（画像検査、神経心理学的検査結果、ドライビングシミュレーター検査結果）、日常生活動作 ADL（Functional Independence Measure）
- ・検体や情報の管理：検体や情報は、当院のみで利用します。

研究組織：この研究は、当院のみで実施されます。

個人情報の取扱い：

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

研究計画書等の公表：

この研究に関連した各種データについて知りたい場合は、担当医師を通じてその情報の開示を求めることがあります。また、ご希望があれば、研究計画書や研究の方法に関する資料の閲覧や、ご提供することも可能です。ただし、他の患者さんの個人情報や研究の知的財産等など、情報の種類によっては開示できないものがあります。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、ご自身の検体やカルテ情報を当該研究に利用することをご了解できない場合などは、研究対象とはしませんので、研究責任者までお申し出ください。その場合でも皆様に不利益が生じることはございませんのでご安心ください。

＜問い合わせ先＞ 独立行政法人国立病院機構 東京病院 リハビリテーション科 氏名：水沼奈津子
住所 東京都清瀬市竹丘 3-1-1 電話：042-491-2111（代）

独立行政法人国立病院機構 東京病院 院長